



クレマチス

31編の詩人は「主に身を寄せます」と助けを求めて 隠された網に落ちたわたしを引き出してください (31:5) と訴えています。「隠された網」とはここでは敵の仕組んだものだけではなく、詩人自身の魂の悩みでもあることが、10節以下に記されています。

主よ、憐れんでください／わたしは苦しんでいます。目も、魂も、はらわたも／苦悩のゆえに衰えていきます。命は嘆きのうちに／年月は呻きのうちに尽きていきます。罪のゆえに力はうせ／骨は衰えていきます。(31:10)

詩人は心も精神も肉体も、衰え、弱り、苦しむ自分自身の姿に直面しています。隣人も、激しく嘲ります…親しい人々はわたしを見て恐れ…人の心はわたしを死者のように葬り去り…ひそかな声が周囲に聞こえ…(31:12) と、友人知人からの信愛をも失って、孤独に生きているのです。そして、恐怖に襲われて、わたしは言いました／「御目の前から断たれた」と。(31:23) とまで言っているのです。抜け出せないような網に、身も心も落ち込み、絡まり、苦しむ時があります。まるで預言者エリミヤが訴えているかのようです。それでも、詩人は主を信頼し、主に身を寄せる時、御もとに彼らをかくまって／人間の謀から守ってください。仮庵の中に隠し／争いを挑む舌を免れさせてくださいます(31:21) と、神の守りと導きに招かれている喜びと感謝を捧げています。「讚美歌 21」には 31編と関連付けている讚美歌がたくさんありますが、469「善き力にわれかこまれ」が 31編を歌っています。ドイツの告白教会牧師ボンヘッフアー(1906-45)がヒットラーへの抵抗運動で逮捕され、処刑される前年に獄中で書いた詩に、ドイツ人アベル(Otto Abel 1905-77)が曲を付けました。参照 <https://www.youtube.com/watch?v=uetYb2qDk4Y>

32編は わたしは黙し続けて／絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。御手は昼も夜もわたしの上に重く／わたしの力は／夏の日照りにあって衰え果てました(32:3) の箇所を読めば、31編の続編かのように響きます。詩人はこの苦しみの中で思い至った胸の内をズバリと告白しています。わたしは罪をあなたに示し／咎を隠しませんでした。わたしは言いました／「主にわたしの背きを告白しよう」と。そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを／赦してくださいました。(31:5) と、自分のすべてをさらけ出した時、神の声を聞くのです。わたしはあなたを目覚めさせ／行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう(31:8) と。詩人は神に赦された喜びに、賛美を捧げています。端書きの「マスキール」は「瞑想的詩」の意味と推測されています。「讚美歌 21」はウルドゥー語(パキスタン、インドの言語)詩編に、パキスタン民謡を取り入れた讚美歌 125「いかに幸いなことだろう」を載せています。

参照 <http://www.its.rgr.jp/data/sanbika21/Lyric/21-125.htm>

33編は 32編の最後の 神に従う人よ(32:11) に引き続き、主に従う人よ、主によって喜び歌え(33:1) と会衆に呼びかけ、「歌え」と勧めています。預言者イザヤも何度も「歌え」と勧めています。主の民は喜びを歌によって表すのです。しかも、琴を奏で、新しい歌を、美しい調べと共に、歌うのです。次に「主の御言葉」への賛歌、御言葉によって天は造られ／主の口の息吹によって天の万象は造られた(33:6) との言葉は、神は 光あれ(創世記 1:2) と言われて天地創造されたこと、万物は言葉によって成った(ヨハネ 1:3) と記したヨハネ福音書を思わされます。地は主の慈しみに満ちている(33:5) と被造物を恵みをもって支配する神に感謝し、国の根幹は軍事力ではなく、見よ、主は御目を注がれる／主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に(33:18) と、信仰であると高らかに歌っています。「讚美歌21」126「感謝して新しい歌で賛美せよ」は詞は정 본초(チョン・ボンジョ)、曲は김 쿨핀(キム・クッチン)、共に韓国人によるものです。参照 <http://www.its.rgr.jp/data/sanbika21/Lyric/21-126.htm>